

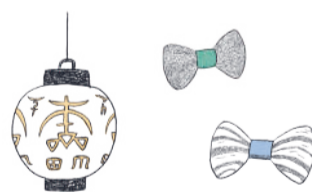
伝統をつなぎ、人と人をつなぎ、  
まちと人をつなぐ。



# SHIMOHONMACHI

## 犬山下本町商店街 いぬやましもほんまちしょうてんがい

犬山城から城下町を通り抜けた先、目の前に広がるビル群の景色が犬山下本町商店街の入口です。左右に整然と建ち並ぶビルには、昭和レトロな佇まいに魅了された店主たちの個性豊かでおしゃれな店舗が点在しています。2023年に60周年を迎えた犬山下本町協同組合の役割は、ますます大きくなっています。江戸時代から続く犬山祭を伝承するとともに、縦だけではなく横のつながりを深める“まちの拠点”へ。ここにしかない魅力を求めて集う仲間たちと、歴史を刻み続けています。



愛知県犬山市東古券・西古券



事例集は「愛知県商業流通課webページ」でもご覧いただけます





1537 犬山城築城

天文6年(1537年)、織田信長の叔父、織田信康によって築城。城下町は犬山城創建に伴い、もともとあった町を整備して作られた。現在も江戸時代と変わらない町割りがそのまま残り歴史的な建造物が建ち並ぶ。

1635 犬山祭が始まる

犬山祭は犬山城の麓に鎮座する針綱神社の祭礼。下本町が馬の塔を、魚屋町が茶摘みの練り物を出して始まった。寛永18年(1641年)には下本町が車山(やま)に変えて人形からくりを奉納するようになり、江戸中期までには今の犬山祭の原型ができあがった。

昭和初期 「銀座」と呼ばれるほどにぎわう



江南市や岐阜県美濃加茂市などからもたくさんの客がきて大繁盛していた。  
ビル建設前の下本町の様子。アーチは祭の車山が通れるよう可動式だった  
(写真提供:犬山山下本町商店街振興組合)

犬山祭の見どころのひとつ、車山(やま)。13軒の車山は1964年に愛知県有形民俗文化財に、犬山祭の車山行事は2006年に国の重要無形民俗文化財に指定され、2016年にはユネスコの世界無形文化遺産にも登録されました

1963 犬山山下本町協同組合設立

1968 「下本町防災ビル」完成

ビル完成直後や、1976年山形県酒田市の大火の後などには、様々な自治体から視察が相次いだ

国が主導した「防災建築街区」として建設。鉄筋コンクリート造と道幅を広げることで「延焼遮断帯」「防火帯」の役割が期待された。



左:当初の防災建築街区の計画図、中:七夕の売り出しの様子、右:アーケードの様子  
(写真提供:犬山山下本町商店街振興組合)

七夕や年末の売り出し、盆踊りなど下本町だけの祭りも盛んだった。昭和50年代の七夕まつりが最後に

ビルは表に店、裏にはなれの住居がある。住居との間に4mの防火道路があった

1975 名濃バイパス開通

名古屋市から豊山町、小牧市、大口町、扶桑町、犬山市、岐阜県可児市、美濃加茂市まで結ぶ国道41号バイパス。岐阜の客が名古屋へ流れるきっかけになった。

1988 キャスタ・イトーヨーカドー開店

犬山駅東口に商業施設「キャスタ・イトーヨーカドー」が開店。開店にともない、下本町からも3軒が移転。

2000 ターニングポイント 「どんでん館」オープン



「どんでん館」オープンを機に城下町のまちづくりが進み、昭和横丁にはテレビ取材も。犬山祭で曳かれる高さ8mの車山(やま)を4台展示。

下本町の車山も「どんでん館」に展示されていて趣向を凝らした人形からくりが見られる

2010 シャッターアート

商店街のシャッターに描かれたカラフルな犬の絵は市の事業で大学生が描いた。

2012 ターニングポイント 「よきやビル」賃貸開始

4階建の元家具屋を貸しビルへ。

よきやのビル現オーナーの祖父が閉業した後、約20年シャッターが降りたままだったビルを引き継ぐ。固定資産税を支払うことが貸し出すキッカケに

雨漏りが大変!水溜まりがいくつもできるほどだった。トータル5年掛けて修繕

波及効果 物件活用

よきやのビル現オーナーが2017年5階建の元家具屋「タカラヤビル」を購入、貸しビルへ。

資料を抑えて若い方が挑戦できる場にできるようにフロアごとに区別して貸し出し。

2015 アーケード撤去

ビル建設当時のアーケードが一部破損したのを受け、補助金を活用して撤去を決断。

2019 ターニングポイント 「糸友」オープン



セレクトショップ&デザインストア「糸友」オープン。前身は大正15年創業の布団店。

このビルの雰囲気にあこがれている人はいっぱいいる。口コミで紹介を受けて入居した

波及効果 店舗オープン

2023年3月に木製蝶ネクタイの店「QISUI INUYAMA GATEWAY」をオープン。

2023 取組成果 犬山ふるまちミュージアム夏まつり



犬山ふるまちミュージアム実行委員を立ち上げ、8月に夏まつりを開催。民謡、ジャズ、ヒップホップと多彩なアーティストによるライブや、「犬山城下町の50年前のにぎわい」展を開催して当時の写真展示などを行った。

波及効果 イベント実施

犬山ふるまちミュージアム

11月にはアート+クラフトをテーマにしたイベントを開催。アート作品の展示や8ミリフィルムのホームムービーの上映会など行った。

・一体化したビルの耐震など老朽化が課題  
・ビルの空き室の賃貸は地域の不動産屋か口コミ紹介なので、空き物件のマッチングや紹介に協同組合としても積極的に関わってきたい。  
ビルの魅力、地域の歴史に魅力を感じる個性的な人たちとまちを盛り上げたい。

今後の課題

城好きの田村淳氏が犬山城をテレビで紹介したことも注目されるきっかけに

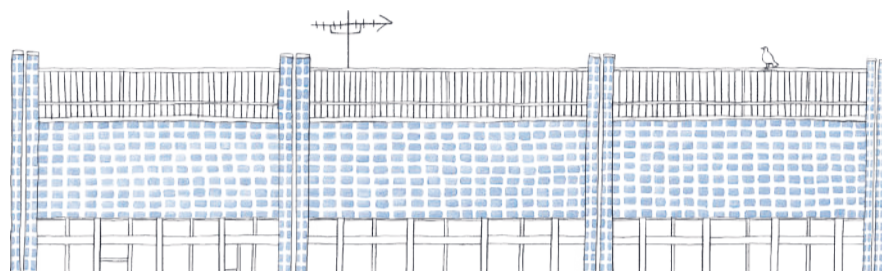


新しくビルに出店した人たちとも横のつながりをつくろうとイベントを開催。これからも単発のイベントを続けて、地域の代名詞になるようなイベントができれば!



## 防災建築街区

1961年に防火建築街区造成法施行。それまでの耐火建築促進法で対象としていた防火だけではなく、津波、高潮、出水による災害防止を目的とした防災建築物の整備が促進され、市街地の再開発事業＝防災建築街区の造成が進められました。商業空間や居住空間の整備、近代的街並みの形成等にもつながることから、多くの都市で実施されました。犬山の城下町は木曾川からの西風が吹き、建ち並ぶ木造家屋の延焼が懸念されていました。下本町は自営の商店が大半だったため補助金を活用して建て替えを決定したものの、中本通りはサラリーマン家庭が多く、建て替えは実現しませんでした。下本町には通りの両側に、3～6階建ての鉄筋コンクリート造の建築が6期にわたって建設されました。



## 防災街区が生み出した独特の街並み

>>大倉さん

この辺りは戦前から個人商店でにぎわっていました。岐阜県の見や御嵩、八百津の人たちも買い物といえば犬山に出てきて、たくさんお客さんが来ましたね。木造の商店が並ぶ通りにはアーチもあって。犬山祭の車山(やま)が通る際には開閉できるようになっていたんですよ。1960年代に防災ビルを建てないかという話が出て、段階的に現在のような鉄筋コンクリートのビル群ができあがっていきました。

>>小川さん

ビルの計画が立ち上がった頃に犬山下本町協同組合もできて、2023年に60周年を迎えました。

>>柴田さん

僕が子どもの頃は営業しているお店も今より多くて、もっと下本町商店街もにぎわっていました。ビルにはアーケードもついていて、平成の終わり頃の風防の撤去時に壊れてしまったのを機になくなりましたが、子どもたちはビルの2階の窓からアーケードの屋根伝いに隣のビルへ渡ったりして遊んでいましたよ(笑)。

>>大倉さん

下本町商店街だけでも七夕祭りや盆踊りをやったりし

て、にぎやかでしたよね。最後にここでお祭りをやったのは昭和50年代くらいかな。

>>永津さん

僕は犬山出身なんですが、下本町にこんな魅力的なビル群があるとは知りませんでした。仕事の撮影で初めて来たときにこのビル群の佇まいに心奪われて。ご縁があって、1年前にショップをオープンしました。交差点の北(お城側)と南(下本町商店街)でがらっと風景が変わりますよね。そのコントラストも独特でおもしろいなと思っています。たまに店から見ていると、城下町から来た観光客で下本町の写真を撮っていく人もいますよ。

>>大倉さん

自分たちには昔から馴染みのあるビルだけれど、古くなったビルの街並みに魅力を感じて、写真を撮っていく人たちがいるのはおもしろいですね。

>>小川さん

古さが魅力である一方で、築60年近い大規模なビルなので維持や修繕の問題はあります。長屋式に所有者が複数いたり、電気系統が共有であったり、建築時期によって状況もさまざまです。



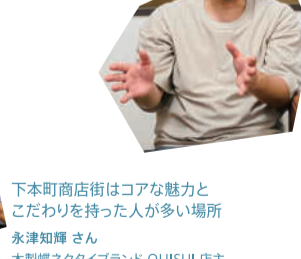
犬山は祭りで人の関係性が醸成されている文化がある  
大倉茂紀さん  
シューズハウスオークラ店主  
犬山下本町商店街協同組合 前理事長



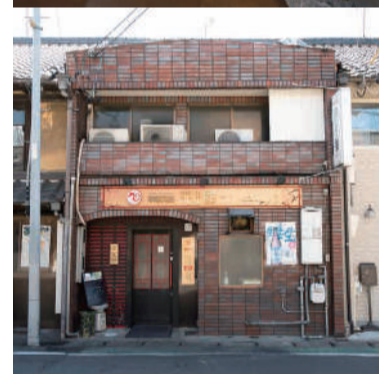
思いがけない人や発想がビルに集まってきてどんどん面白くなっています  
小川博隆さん  
司法書士小川事務所  
犬山下本町商店街協同組合 理事長



横のつながりを育てて自分が育った商店街を活性化させたい  
柴田憲一さん  
セレクトショップ&デザインストア糸友 店主



下本町商店街はコアな魅力とこだわりを持った人が多い場所  
永津知輝さん  
木製麺ネクタイブランド QUISUI 店主





## 変化する人と時代の流れ、暮らしから観光のまちへ。

>小川さん

昔は犬山駅の西側と東側で人の流れもずいぶん違いましたよね。商店街があって、人通りが多いのが西側のこのエリアでした。

>>大倉さん

昭和の終わりに駅の東側にあった紡績工場跡地にイトーヨーカドーができました。当時は、駅前のショッピングセンターに出店するなら、ここでの個人商店を閉めなければいけなかったんです。うちも商店街にあったお店を閉めて駅前に出店したし、他にも同じように移転していくお店が増えて、一気に商店街のにぎわいがなくなってしまいました。

>>小川さん

昭和の終わりから平成にかけてどんどんシャッター街になって人の流れも変わっていききましたよね。僕も実家の百貨店を手伝ったりしましたが、だんだんと廃業に向

かっていって。

>>柴田さん

うちは父の代で布団店を閉め、僕自身は外に勤めに出てアパレル企画の仕事をしていました。いずれは地元で何か還元したいという想いをずっともっていて、子どもの成長を機に生まれ育った下本町商店街に戻ってきました。犬山祭で自分も車山を曳いていたので、子どもにもやらせたかったというのも大きかったです。

>>大倉さん

商店街とは別の動きですが、ここ15年くらいで犬山城と城下町が一気に観光地化して人が来るようになりました。第三セクターのまちづくり会社ができたり、テレビで犬山城が紹介されたりして、この商店街にも大学生がシャッターに絵を描きに来ましたよ。城下町の方では外から来て、観光客向けの商売をする人が多いですね。



## 個々のポテンシャルが光る下本町商店街のこれから。

>>小川さん

協同組合としてお店を誘致しているわけではないけれど、最近は新しい商売を始める人が増え、ビルを借りたい人は物件のオーナーへ個別に連絡を取って入居しています。

>>永津さん

僕は外から来た人間ですが、下本町は知人ぞ知る場所という「コアな感じ」が魅力だと思います。この雰囲気惹かれて集まる人たちは、みなさん個性的。自分のキャリアや特色を活かしたお店ばかりで、尖ったコンテンツがお客さんに受けています。“この場所に対する思い”という共通点があるのは、下本町の強みですね。

僕のお店「QISUI(キスイ)」がある場所は元々手芸屋さんがあった場所で、自分も木製の蝶ネクタイや装身具を作っているの、そうした場所の持つ歴史との親和性があるのもいいなと感じています。

>>小川さん

ここ20年程で商店街が変化した理由として、若い世代が思いがけない商売を始めていることが大きいと感じています。それぞれニッチな分野で個性的な活動をしていてもちゃんと商売として成り立っていて。謎は多いんですけど(笑)。そういう自分たちが思いがけない発想のお店が一つひとつ増えてきたことが、今につながっています。

>>大倉さん

こだわりやビジョンをしっかりもっている人たちが自然と集まってきていて、下本町の魅力もどんどん広がっています。

>>柴田さん

商店街としてもこのままではいけないと、2023年には8月にミュージックフェス、11月にアートを開催しました。イベントは楽しくやれるのが理想的ですね。

>>小川さん

私もミュージックフェスにジャズカルテットで出演しました。何かこの地域の代名詞になるようなイベントができていくといいのかなと思います。

>>柴田さん

新しい人たちともつながりを深めていきたいですね。犬山祭はあもすもなく(否応なく)1年間通してやるのがあって生活の一部となっており、祭りのコミュニティでは代々、次の世代へ教えていく仕組みがあります。地域全体で協力する祭り文化があるおかげで地域の結束が強く、その良さも活かしたいです。また、城下町の方では祭りに城に城下町に飲食店、土産物屋と、足し算で観光地として盛り上げていった印象があります。下本町は一見シャッター街に見えて、実は他に比べて昔から商売している方がまだまだ多い地域。昔からの人脈や文化を尊重できるような商売でまちを盛り上げ、活性化につなげられたらいいなと思います。

>>小川さん

下本町商店街を訪れる人が他にはない魅力を感じてくれるのはうれしいので、長くこの場所を盛り上げていけるようにがんばっていきたいです。これからは協同組合として横のつながりを広げる仕組みづくりもできたらと考えています。物件のオーナーさんにとっても、場所を探している人にとっても良いご縁が生まれるようにサポートしていきたいです。

